

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム太陽(くだもの通り)	評価実施年月日	平成21年11月25日
評価実施構成員氏名	太田・佐々木・須田・山口・森・萬年・真岩・大廣・根田		
記録者氏名	太田	記録年月日	平成21年11月25日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>入居者さんの外出の機会を多く取れるよう職員の配置など検討していきたい。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	各部屋に担当の信頼できる職員がコミュニケーションをとり、管理者や職員が意見や不満を聞き入れ、運営やケアプランに反映させるよう努めています。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	健康状態や容態の変化時の受診の結果を電話でその都度連絡をとり、ご家族が来られた時ご利用者の表情をみて頂きながら暮らしぶりをお知らせしています。金銭管理については、ご利用者の各々の出納帳をつけ、ノート半ページ埋まった時点で、コピーしたものと領収書を添付しご家族へ送付しています。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関の入り口前に投書箱を用意し投函できるようにしていますが、いつでもご家族から意見や不満や苦情が管理者に伝える事が出来る関係を作り、真摯に受け入れ、改善できるように努めています。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	週2～3回のカンファレンスマーケティング時や2か月に1回の全体会議、必要に応じ会議を行い意見を交換しています。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	基本的な勤務体制がありますが、ご利用者の状況にて、週3回の入浴日には、職員の人数を多くし、ご利用者の安全に努めています。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	管理者が、5月に変わり今までの支援にダメージを受けないように前管理者の引継ぎやご利用者、ご家族、職員からお話を聞き、穏やかに生活が送れるように話し合いをしながら努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>興味や資格に応じて必要な研修に参加し、様々な研修の情報を朝礼や会議で報告し、支援についての刺激を受けと共に毎日の支援に役立てています。</p>	<p>各種研修会、講習会などに参加するように配慮していき、職員の育成を図っていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム研究会や地域のグループホームの管理者や職員と交流を持つよう努め情報交換ができるよう取り組んでいます。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>仕事での悩みや要望を話す機会を設けたり、春の慰労会、夏祭り、忘年会など仕事の仲間と楽しく交流をもちストレスを軽減するよう努めています。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>介護福祉士などの有資格者に対して、H21年5月から資格手当を支給し、努力実績を認め、介護の専門職としての責任のある仕事をし向上心をもって働いています。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>今、何が不安で困っているかを傾聴し、ゆっくりと一緒に考えていき安心して生活出来るように努めています。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご本人もご家族も本当は、自宅でご家族と一緒に生活したいという気持が一番ですが、それが出来なくなった事情を受け止め、ご本人やご家族が不安や求めている事を傾聴し、安心して頂けるように努めていきます。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御本人、ご家族が今困っている事、今後どの様にしたいのか、そして一番に御本人にとって、今何が必要なかをアセスメントし、必要なサービスの情報を提供していきます。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人とご家族に見学に来ていただき、ホームの生活に馴染めるようコミュニケーションをとったり、病院などの施設に出向き身近な生活状態を把握し、家族と相談し不安を感じないように支援します。また、ご家族に泊まって頂いたり、1～2泊生活して徐々に馴染んで頂くよう状況に応じて柔軟に対処しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は一人一人の体調を心配したり、楽しんでもらう為に行事の準備を行い、一緒に楽しみご本人から暖かい言葉や励ましを頂き、その優しさから職員の仕事のやりがいや誇りになり支えあう関係になっています。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が来られたとき、日常生活での状況をお伝えし、ご家族からのアドバイスを頂き、共にご本人を思いより良い支援が出来るように努めています。ご家族に行事などに参加して頂き、ご本人と職員と楽しみ寂しく無い様支援して頂いています。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	これまでのご本人と家族の関係を十分に理解し、日常の生活の様子をお伝えし、お互いに良い事も悪い事もお話出来る関係を保ち支援しています。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご近所のお付き合いを長年されていたお友達が遊びに来られたり、何十年ものかかり付けの病院にお連れし健康状態や気心が知れている為、安心して過ごされるよう支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	自室でご自身の時間を楽しまれる方も多いですが、食事やラジオ体操、レクリエーション、おやつなど声を掛け合い、誘い合いながらホールや食堂まで来られ、体調が悪くホールに来られないととても心配されます。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	継続的な関わりが必要な時、必要な方には、ご利用者や家族からの関係を大切にし、信頼関係が出来るよう努めています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人が車椅子から歩行器で歩行を希望された時、主治医の指示に従い、歩行訓練のリハビリに通院したり、ホームの廊下を歩行訓練の支援を行い、ご本人の希望や意向を大事にしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族から、趣向品など伺いホームでも提供できるように努め、馴染みの家具や衣類(スカート、エプロンを付けられる方)の好みを大事にし、お茶呑み友達の多い方は遊びに来られたり、入居前からの馴染みの病院に通院され安心してあります。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	体調に合わせてベットで臥床している事多い方も、毎食事、10時のラジオ体操、15時のおやつやレクリエーションの参加でホールに来て頂き、お誕生会やクリスマス会などの行事にも参加していただいています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族と日頃の生活の状況に応じて、ご本人の意見を聞き、情報交換したり、主治医と健康状態の支援について報告し指示を求め、最終的に、週2～3回のケアカンファレンスで、職員がご本人に出来る日常の支援について、より多くの情報を基に話し合い介護計画を作成しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	6カ月の期間でゆっくり支援し、ケアの見直し継続しています。骨折や入院など今迄の介護計画では対応出来ない時、ご本人や家族、必要な関係者と十分話し合い状況に即したアセスメントや計画作成に努めています。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	朝礼やケアカンファレンスでケアの実践や結果、気づきなどご本人らしい暮らしぶりの個別記録が少なく指導を行い、より実践の効果や見直しに活かしていくよう努めています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご家族が、食事の時間に来られたら、一緒に食事して頂いたり、希望されれば宿泊と食事の用意をさせて頂いています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防訓練を指導の基に実施しています。地域のボランティアの協力によりフラダンス、カラオケ、よさこい、おもちつき、お茶会、生花などの行事の参加支援して頂いています。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人の意向や必要性があれば、地域の他のケアマネージャーと話し合うように努めます。		今後より多くの情報の収集や交換が必要と思い取り組んでいきます。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	権利擁護の支援についての相談は生じていないが、東光・千代田地区包括支援センターと交流を持ち、空き室情報の報告や地域のご高齢者の入居の希望相談などの情報を交換しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前からのかかりつけ医療機関に定期通院の支援を行っています。ご本人のバイタル、食事摂取量や生活の状況や日頃の痛みの訴えや容態により受診し、又他科受診した時は、検査や治療の内容、服薬など報告し適切な医療が受けられるよう支援しています。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	ご家族に日頃の状況や変化を詳しく伝え、他のご利用者に精神的、身体的に苦痛を及ぼす場合ご了解を得て、主治医へ相談し、専門医への受診が必要な場合指示を頂いて支援しています。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所には、看護職員は在籍していませんが、定期往診にきて頂いている在宅医療部の看護職にご相談し、指示を仰いだり、受診の為の情報を医師に説明して頂き円滑に適切な治療や健康管理ができ安心してあります。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	ご本人が安心して過ごせるよう日常生活状況のアセスメントを提供し、できるだけ早期退院できるよう一週間経過頃、病院関係者と情報交換し、退院に向けてご家族と共にホームでの支援や今後治療方針など相談し連携をとっています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	看護師の在職がない為、ご本人に医療行為を必要とする主治医から診断を受けた時、ご本人、ご家族の意向を基に話し合っていく、方針を共有している段階のご入居者もいます。		11月の若年認知症ケアと終末期ケアの研修に参加し学ぶ予定です、今後も重度化や終末期ケアの研修に参加し多くの情報を吸収し、活かしていきたいです。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	食事を十分摂取出来ない時、エンシュアやラコールで補ったり、バイタルチェックにより誤嚥性肺炎や感染症の異常や褥瘡予防などをアセスメントしケア計画として、日々介護支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>関係者に情報を提供し、住み替えや環境の変化による混乱がないように努めています。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人一人認知の状態も個別であり、排泄の声掛けにも耳元できちんと小声で伝えないと気を悪くされる方や聴力障害により大きな声で伝えご本人の協力を仰いでいますが、それぞれに誇りや尊厳を持って対応し、記録や個人情報の取り扱いも注意しています。</p>		
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>着替えの洋服などご本人が自身で決め替えられる方、職員が洋服を幾つか提供し、ご本人の意思を確認し決められる方、それぞれの方に応じて支援し、買物も一緒に行って頂きご本人の意に沿ったもので納得して頂いています。</p>		
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>起床、就寝時間をご本人に合わせて、ご本人に希望を聞き、食事の時間が他の方より遅くなったり、昼寝の時間や活動により就寝時間が遅くなったりしますが、ご本人の意思にそって支援しています。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問理容により、カットや髪染め、パーマをされ、特に希望の店を指定される方はいませんが、馴染みの店を指定される方には、希望に添うよう支援します。女性が多く、化粧品やヘアケア商品など今迄使用していた物を求めに応じて買物支援しています。</p>		
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>肉の嫌いな方には、とんかつを海老フライに替え、パンが嫌いな方、麺類を好まない方がそれぞれ食事を楽しめるようにしています。ホームの畑で取れた沢山の野菜やとうきびなどの皮剥き作業をして頂いています。又、イベント行事に季節を感じさせる特別食を提供し、皆さんとても楽しみにしています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ビールやカクテルを好まれる方は、行事で皆さんにカクテルを振舞って喜びを感じたり、カラオケの後気分がよくビールを飲まれます。10時のラジオ体操後、皆さんに牛乳やジュース、入浴後もジュースを提供しています。自動販売機でジュースやコーヒーを求めたり、ご家族が持ってこられた好みのお菓子をお部屋で楽しまれています。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表により、各々の排泄リズムを把握し、日中はトイレ誘導を行い、夜間は個々にオムツを頻回にチェックするなど、尿量に応じて適正なオムツやパットを考慮しオムツの使用を減らす工夫をしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週3回月、水、金曜日の午後から入浴としています。特に、これらの日以外に希望を言われる方はいませんが、今後希望がありましたら、対応できるように支援していきます。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼食後は、休息の時間としてお部屋で過ごされたり、ホールのソファで休まれたりしています。本人の希望の時間に就寝薬を服用されたり、夜間眠れない時は、暖かい飲み物など提供し安心して眠れる様に支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ホームでの行事で、皆さんに美味しいカクテルを準備し振舞って頂いたり、カラオケを歌って楽しまれたり、専業主婦の方は、編み物や農作物の皮剥き、ご近所の方が来られたり、入居者さん同士のお部屋に遊びに行ったり、来たりしてお喋りやお茶飲みしています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には、ご家族からおこずかいとして事務所で預かり管理していますが、家族から幾らかおこずかいを貰い、パーマの支払いをされたり、交際費に使われたり、訴え時に事務所の預かり金から千円ずつお渡しし、ジュースなど購入しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	花見や紅葉を見にドライブをしたり、畑にトマトや絹さやを採りに行ったり、おやつを職員と一緒に買物したり、戸外へ出る機会を多く心掛けています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	6月中旬に旭山動物園の予定し、ご家族にもお手紙を出しましたが、天候不順にて中止し、7月さくらんぼ狩り、8月かなりランド、9月忠別ダムへ紅葉にドライブをしていますが、歩行が思うようにならない方が多くなり、あまり参加されません。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	お部屋に電話を付けている方は、自由にご家族や親戚、お友達と電話しています。お部屋に無い方は、事務所に来られ、相手先に通話支援しています。手紙等もやりとりに協力支援しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪のお電話があった時は、ご本人の体調や病院の予定などで留守でないようにお話し、いつでもお部屋でゆっくりと過ごして頂き、ご本人の近況や行事の写真など見て頂き楽しく過ごされる支援をしています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束その他行動制限防止」太陽マニュアルを作成し、全員で身体拘束ゼロに取り組んでいます。身体拘束しないように、カンファレンスにより様々な方法を支援し、拘束しないよう対応しています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、正面玄関の外ドアは自動ドアになっており、内ドアは手動ドアでセンサーを設置し鍵をかけないケアをしています。夜間の各お部屋も鍵はついていますが、掛けずに安心して過ごされています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>特に夜間の巡回はプライバシーに配慮し行っています。日中は、認知により他のお部屋に入る方のトラブルがあり、見守りを重視しています。</p>		
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>お部屋に各自ハサミを持って、袋菓子を開けたり、湿布を切ってご自分で貼ったりされていますが、保管、管理が出来なく危険と思われた時、事務所で管理し、必要な時職員が見守りで行い保管しています。</p>		
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>職員全員が、入居者一人一人の状態を把握し、事故防止に取り組んでいます。特に誤嚥や転倒の注意を重視しています。</p>		
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>「緊急事態対応マニュアル」を準備しているが、定期的な訓練は行っていない為、経験豊富な熟知した職員に対応が任されています。</p>		<p>職員の対応に差が無いように、定期的に訓練を行っていきたい。</p>
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>火災については、避難訓練で、通報、消火、入居者様の避難誘導訓練を実施し、運営推進委員として近隣の住民の方の支援や近くの住む職員の応援により、一人でも多く手当てや初期対応が出来るように訓練に参加しています。</p>		
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>特に、転倒リスクのある方が多く、「見守りなく、自由にトイレに行きたい」「車椅子から、歩行器を使用したい」と訴えがある為、その都度医療機関に相談し、指示を受け、ご家族に状況をお話しています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>畑で採れたての新鮮な野菜と週3回の買物により、賞味期限内で新鮮な食材で調理しています。食器は食洗機で高熱洗浄し、調理器具や洗浄器具は週単位で分解清掃をしています。布巾やまな板など漂白に漬け込み食中毒防止に取り組んでいます。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関前はゆとりがあり、地域の方の手伝いと職員の管理する花壇があり、玄関まで緩やかなスロープと安全な手摺りがあり、誰でも気軽に出入りできる雰囲気を作っています。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居間と食堂が隣あわせになり、調理の音が生活感でもあり、騒がしいと感ずる時もあるようです。大雪山が見えて見晴らしがよいのですが、各々のお部屋で過ごされている事が多いです。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食堂で食事の前後に、気の合った入居者さん同士でおしぼりたたみをしたり、お話をされていますが、一人になりたい時は、皆さん自分のお部屋で過ごされています。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家具やソファなど使い慣れた物や愛着のあるものを、それぞれ持ち込まれご本人にとって居心地のいい場所となっています。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>各居室に防臭プラグを備え定期的に交換し、廊下やお部屋の換気に気をつけたり、暖房や床暖房の温度調整や乾燥しないようホールに加湿器やお部屋に洗濯物を干して湿度調整しています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		<p>トイレの洗面所を車椅子が入るようバリアフリーにする。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		<p>夏季はベランダで食事やおやつ、花火など車椅子でも利用が可能で大雪山を眺めながら楽しい時間を過ごされ、畑には、沢山の種類の野菜を作り、手作りの案山子を立てたり、ひまわり畑で写真撮影をして楽しんでいます。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
目の前に大雪山の山々が見え、太陽の農園から美味しく新鮮な野菜や果物が食卓に並び、皆さん毎日の食事をとても楽しみにしています。職員も「太陽」の理念である、アットホームな家族的な雰囲気を目指し、笑顔を絶やさず日々一緒に暮らしています。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム太陽(やさい通り)	評価実施年月日	平成21年11月25日
評価実施構成員氏名	両瀬・長沼・高橋・若松・佐々木・馬道・荒井・鈴木・小林		
記録者氏名	太田	記録年月日	平成21年11月25日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>入居者さんの外出の機会を多く取れるよう職員の配置など検討していきたい。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

太陽のケア理念『私たちのグループホーム太陽はアットホームな雰囲気の日常生活とみんながひとつの家族になることを目指して、一人一人の状況「あるがまま」を素直に受け入れ、個人個人の尊重を大切にしながら「なすがままに」を容認しつつ優しく介護し、みんなが快適で健やかな日々の生活を送れるように努めます。』

ケアの方針を職員全員で意識し日々より良い支援について話し合い取り組んでいます。

来客の方やご家族皆さんの目につく玄関正面に理念を掲示しています。

入居者さんの散歩の途中に近隣の方に挨拶をしたり、近所の保育園児が散歩したり、遊んでいる様子を見に行ったり、運動会などの行事によんで頂いたり、近所のお年寄りが遊びに来られます。

今年は、町内会の焼肉パーティーと太陽の夏祭りの日程が重なり、入居者さん、職員とも楽しみにしていましたが参加できず、今後日程を考えて予定をたてます。敬老会に地域の保育園児の皆さんに歌や踊りの予定やお遊戯発表会がインフルエンザの流行により楽しむ事ができず残念でした。

SOSネットワークで検索されている地域の高齢者の情報をタイムカードの横に貼り、気に留めるようにしています。地域のご高齢者やご家族の入居の相談や質問など気軽にお話ができる体制にしています。地域のご高齢者にお役に立ちたいという意識があり、認知症サポーター100万人キャラバンのサポーターの研修を職員11名参加登録し、貢献する様取り組んでいます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>消防訓練による運営推進会議において、他の施設長をお招きし、評価して頂き、訓練を通し委員の方の意見を聞きサービス向上を図っています。また、訓練では防火意識及び避難最優先の意識を高めています。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>市の主催する研修に参加し、市内のホームの監査の指摘事項の情報を得て、市の担当者に監査報告、改善を行いサービスの向上に努めています。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>市の主催の「介護支援業務に伴う法律問題と対処方法について」の研修に参加し、具体的な対象の方の認識や活用にあたって、法的支援機関のアクセス相談の窓口が把握でき、今後必要な方への活用に役立てたいと思います。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>虐待の事実はないが、日頃の話し合いの時間を取り、検討会で確認を行い防止に努めています。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>契約書を提示し、十分な説明を行い、分らない事や疑問な点は、ご理解頂くまで説明しています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	各お部屋に担当の信頼できる職員がコミュニケーションをとり、日頃の訴えや不満を聞き入れ、ケアカンファレンスによりケアプランや運営に反映させるよう努めています。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	健康状態や容態の変化時の受診の結果を電話でその都度連絡をとり、ご家族が来られた時ご利用者の表情をみて頂きながら暮らしぶりをお知らせしています。金銭管理については、ご利用者の各々の出納帳をつけ、ノート半ページ埋まった時点で、コピーしたものと領収書を添付しご家族へ送付しています。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関入り口前に投書箱を用意し投函できるようにしていますが、いつでもご家族から意見や不満や苦情が管理者に伝える事が出来る関係を作り、真摯に受け入れ、改善できるように努めています。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	週2～3回のカンファレンスマーケティング時や2か月に1回の全体会議、必要に応じ会議を行い意見交換をしています。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	基本的な勤務体制があり、ご利用者の状況に合わせて、週3回の入浴日には、職員の人数を多くし、ご利用者の安全に努めています。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	管理者が、5月に変わり今迄の支援にダメージを受けないように前管理者の引継ぎやご利用者、ご家族、職員からお話を聞き、穏やかに生活が送れるように話し合いをしながら努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>興味や資格に応じて必要な研修に参加し、様々な研修の情報を朝礼や会議で報告し、刺激を受けると共に毎日の支援に役立てています。</p>	<p>各種研修会、講習会などに参加するように配慮していき、職員の育成を図っていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム研究会や地域のグループホームの管理者や職員と交流を持つよう努め情報交換が出来るように取り組んでいます。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>仕事での悩みや要望を話す機会を設けたり、春の慰労会、夏祭り、忘年会など仕事の仲間と楽しく交流をもちストレスを軽減するよう努めています。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>介護福祉士などの有資格者に対して、H21年5月から資格手当を支給し、努力実績を認め、介護の専門職として責任のある仕事をし向上心をもって働いています。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>今、何が不安で困っているかを傾聴し、ゆっくりと一緒に考えていき安心して生活出来るよう努めています。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご本人もご家族も本当は、自宅で一緒に生活したいという気持が一番ですが、それが出来なくなった事情を受け止め、ご家族が不安や求めていることを傾聴し、安心して頂けるように努めていきます。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御本人、ご家族が今困っている事、今後どの様にしたいのか、そして一番に御本人にとって、今何が必要なのかをアセスメントし、必要なサービスの情報を提供していきます。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人の要望を聞き入れた上で、職員間の統一した介護で安心した生活が出来る様に努めている。支援をさせて頂く前に御本人との話の場を設けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	お世話させて頂いている反面、たくさんのことを学ばせてもらっています。共に支え合ういい関係に努めていきます。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の面会時には、生活状況や身体的な状況など詳しくお話し、ご家族と共に支援しています。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族が来訪された時は、日頃の様子をお伝えし、又、家庭でのこれまでの生活状況を参考にして頂き良い関係が保てる様に努めています。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人との昔からの関わりのある方との面会、又ご本人がここに入居する前に住んでいた場所などに連れて行き馴染みの人と会って話をしたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事の席やホールでの座る席等に人間関係を配慮し、口論やトラブルにならないよう努めています。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	継続的な関わりが必要な家族に対しては、いつでも相談にのるように心がけ関係を断ち切らない様になっています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「自宅に帰りたい。」などの要望があった場合、理由を聞き気分が落ち着くよう支援し、それでも納得されない時は、ご家族に来て頂いたり、自宅まで送り安心し納得して頂く。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	お部屋の担当スタッフが、清掃や身の回りのかたづけ等を通して、ご利用者の普段の変化を観察し把握に努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	皆さんほぼ日中は、ホールで過ごされていますが、ベットで過ごす事が多い方も毎食事の時間やおやつ、お風呂等で2時間おきにベットから離れ車椅子やソファで過ごされています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族と日頃の生活状況に応じて情報交換したり、ご本人の意見を聞き、主治医と健康状態の支援について報告し指示を求め、週2～3回のケアカンファレンスで職員の意見交換をしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	6か月の期間でゆっくり支援し、ケアの見直しや継続をしています。状態に変化が生じた時、ご本人やご家族、必要な関係者と十分話し合い状況に即したアセスメントやケア計画作成に努めています。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日中の様子は細かく記録できていないのが現状ですが、少しずつ気づきの記入に勤めています。夜勤帯の方が細かく記載されています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご家族が食事の時間に来られたら、一緒に食事して頂いたり、希望されれば、宿泊と食事の用意をさせて頂いています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	年に2回消防訓練を指導の基に実施しています。地域のボランティアの協力によりフラダンス、カラオケ、よさこい、お餅つき、お茶会、生花などの行事の参加支援して頂いています。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人の意向や必要性があれば、地域の他のケアマネージャーとの話し合いに努めます。		今後より多くの情報の収集や交換が必要と思い取り組んでいきます。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	権利擁護の支援についての相談は生じていませんが、東光・千代田地区包括支援センターと交流を持ち、空き室情報の報告や地域のご高齢者の入居の希望相談などの情報を交換しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけの病院に定期受診、又は、往診をして頂き、主治医に相談し健康管理に努めています。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	ご家族に日頃の状況や変化を詳しく伝え、他のご利用者に精神的、身体的に苦痛を及ぼす場合ご了解を得て、主治医へ相談し、専門医への受診が必要な場合指示を頂き支援しています。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所には、看護職員は在職していませんが、定期往診にきて頂いている在宅医療部の看護職にご相談し、指示を仰いだり、受診の為の情報を医師に説明して頂き円滑に適切な治療や健康管理ができ安心して頂いています。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院関係者との情報交換を行い、相談する機会を作っています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	看護師の在職がない為、ご本人に医療行為を必要とする主治医から診断を受けた時、ご本人、ご家族の意向を基に話し合っており、方針を共有している段階のご家族もいます。		11月の若年認知症ケアと終末期ケアの研修に参加し学ぶ予定です。今後も重度化や終末期ケアの研修に参加し多くの情報を吸収し、活かしていきたいです。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	食事を十分摂取できない時、エンシュアやラコールで補ったり、バイタルチェックにより誤嚥性肺炎や感染症の異常や褥瘡予防などをアセスメントしケア計画として、日々介護支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>今後、そのような事があった場合、関係者に情報を提供し、住み替えや環境の変化による混乱がないように努めています。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>否定的な返答をしないように対応し、誇りを傷つけないようにしている。記録等の個人情報においても保管場所に配慮し、プライバシーの保護に努めています。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ゆっくり話を聞いて、ご本人の自己決定をする様心がけています。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>起床時や就寝時は、入居者のリズムに合わせて行っています。又、食事でも起床の遅い方は、起床時間に合わせて食事を食べてもらっています。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>季節に合わせて洋服を着替えておしゃれをしたり、訪問理容サービスを定期的又は、家族の依頼により利用され、身だしなみに配慮しています。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の状態にもよりますが用意、後かたづけを手伝ってもらっています。食事の前にメニューを説明しています。又、イベント行事に季節を感じさせる特別食を提供し、皆さんはとても楽しみにしています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒やタバコを飲まれる方は居りませんが、ご本人が望むものは、こちらから用意して楽しんでもらっています。(但し、施設内は禁煙としています)		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表により、個人の排泄のリズムを把握し、日中はトイレ誘導を行い、夜間はおむつを頻回にチェックするなど、尿量に応じて適正なおむつやパットを考慮し、使用数を減らす工夫をしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週3回月、水、金曜日の午後から入浴としています。特に、これらの日以外に希望される方はいませんが、今後希望がありましたら対応できるように支援していくよう努めます。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日々状態を把握しています。睡眠を8時間以上とり、昼食後は休息の時間をとって頂いています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	外出や散歩趣味を活かした将棋、習字、カラオケ、アクリル毛糸編み、畑仕事等を職員と一緒に楽しんでいます。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買物に出かけた時は、職員と一緒に支払いをしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	花見や紅葉を見にドライブをしたり、畑にトマトや絹さやを採りに行ったり、おやつを職員と一緒に買物したり、戸外へ出る機会を多く心掛けています。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	6月中旬に旭山動物園を予定し、ご家族にも手紙を出しましたが、天候不順にて中止し、7月さくらんぼ狩り、8月かなりランド、9月忠別ダムへ紅葉にドライブをしています。が、歩行が思うようにならない方が多くなり、あまり参加されません。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	自室に電話を引いている方もいますし、引いてない方は事務所からかけられるように支援しています。手紙の投函や代筆など要望があれば支援します。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	入居者さんと来訪者がゆっくり出来るように、お部屋を希望されたらお部屋で、ホールが希望でしたらその場所で、入居者さんに合わせて過ごしてもらっています。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束その他行動制限防止」は、スタッフが気配りの気持を持ち、やむ得ない時はケア会議を開き、その方にあう対応を考え、案を出し合って拘束しないよう努めています。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中正面玄関の外ドアは自動ドアになっており、内ドアは手動ドアでセンサーが付いています。毎日、職員が玄関の方へ向かって行かない様に気をつけて見守りをしています。各お部屋の鍵は、夕食後から起床時まで自ら内鍵をされ休まれる方もいますが、職員が鍵を常備し巡回しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員全員が、利用者の行動を把握している。特にトイレ等には利用者のプライバシーに留意して見守りをしています。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	認知が進み、鏡台の椅子やクッションでも危険と判断しお部屋からなくす方やはさみやのりで小物を作る方、果物ナイフで果物の皮を剥く方としまして、各々対応しています。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	入居者さん一人一人の状態を把握し、その状態に適応したケアに取り組み、特に事故防止に気を付けています。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	「緊急事態対応マニュアル」を準備しているが、定期的な訓練は行っていない為、経験豊富な熟知した職員に対応が任されています。		職員の対応に差が無いように、定期的に訓練を行っていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災について職員、入居者全員が参加して避難、通報、消火、救護の訓練を消防、防災各機関の指導を年2回受けながら実施している。又近隣住民の方にも協力が得られるように定期的(年4回)に打ち合わせを実施している。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	常にご利用者の家族と連絡を取り、抑圧感の無いように支援に努めます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>職員全員が早期発見できる様に、利用者の普段の体調を把握しておき、変化などの気がついたことは記録し、最低限の応急処置ができるように努めています。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬の名称、目的、副作用等について理解していないのが現状であるが、不明な時は、必ず「入居者の処方箋」及び「通院記録」などを確認しています。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>排便記録表を確認し、入居者さんの排便状況にあわせて対応しています。(3日以上排便のない人は、特に注意しています。)</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>入居者個々に応じた口腔ケアを歯科医師の指導を受けながら毎食後、ブラッシング(義歯の方も)等を実施している。必要に応じて歯科医師に口腔内の状態の確認をお願いしている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>ご利用者別に水分摂取量を一日を通して記録しています。野菜を中心として栄養バランスを考えて調理しています。</p>	<p>ご利用者の塩分摂取を1日7～8%に抑え健康管理に努めていきたいです。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症に対する知識を得る為、感染予防に関する講習会(公演)に参加し予防に努めている。入居者、職員、来客者の施設へ入る際は、内玄関に設置してある消毒液(ソリューションウォーター)で手伝洗い、又うがい液でうがいを実施している。食事の前には手洗いを実施している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理器具類は、毎日調理が終わったあと次亜塩素酸液に漬け込んで消毒しています。食材は、週3回の買物をして新鮮なものを購入しています。自施設にある農園で収穫する無農薬野菜を食材として利用しており、利用者が大変喜ばれています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関前は広々した敷地で、玄関までは緩やかなスロープでつながっています。玄関まわりに花畑があり、クリスマスには飾りつけをしたり、誰でも気軽に出入りが出来る雰囲気になっています。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	音楽等の音量には利用者の立場を考慮し、適当な音量に気を配っています。窓も多く、カーテンでの遮光などで心地よく暮らせるように配慮したり、季節に合わせたご利用者と職員の合作の手作りカレンダーを掛けています。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	ホールでは、椅子やテーブルの配置の工夫により、ご利用者が思い思いの場所で過ごされています。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	家具など使い慣れたものや愛着のあるものなど制限する事なく自由に持ち込み、ご本人の希望を最大限に尊重する事で、心地よい生活を送っている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないように換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	常に室温に気を配り、冬期間は特に室内が乾燥するのでホールにおいては、加湿器による湿度調整を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

窓から大雪山の山々が見え、太陽の農園から美味しく新鮮な野菜や果物が食卓に並び、皆さん毎日の食事をとても楽しみにしています。職員も「太陽」の理念である、アットホームな家族的な雰囲気を目指し、笑顔を絶やさず日々一緒に暮らしています。